

さるしま junior



第17号（冬一その2）

令和4年1月18日発行

園長 小菅 哲也

何となく 今年はいいことあるごとし 元日の朝 晴れて風なし

石川 啄木

これ以上ない天候の中、令和4年（2022年）が幕を開けました。今年、さくら組にとっても、諏訪幼稚園にとっても節目の1年。かけがえのない日々を大切に、有意義な1年にしていきましょう。本年もどうぞよろしくお願いたします。



今年の初挑戦は、トラ作り



「始業式では子どもたちに日本の伝統文化・『折り紙』のことを話そう。その手始めとして、自分が折り紙で今年の干支・トラを作ってみようか…」。

今年の初挑戦。さっそく折り紙の本やインターネットで「トラの作り方」を調べます。数種類の候補が浮かび上がりました。その中から、子どもたちが喜びそ

うで、自分にもできそうなトラを選びました。久々の新作への挑戦。まずは順調な滑り出しです。ところが、トラの頭を作るところで最初の壁にぶつかります。向きを変えても、裏返しても、開いてみても、お手本の形にはなりません。「子どもたちがイライラしたり、涙を浮かべて先生に助けを求めたりするのはこの時か…」などと思いながら試行錯誤を重ねるのですが、うまくいきません。慣れない手つきで折り進めてきた20個の工程。残念ですが元にもどして、確実にできているところから折り直してみます。トラの頭と耳がようやく現れてくれました。その後も折り紙と格闘を重ねながら、何とか少し傾いたトラが誕生しました。



幼稚園に勤務させていただくことがなければ、この「トラ作り」に挑戦することはなかったでしょう。トラが順調に完成していたら、「こんなものか」と心の中をすうっと通り過ぎてしまったでしょう。曲がりなりにも苦勞して作り上げたからこそ、子どもたちと同じ完成の喜びや作品への愛着を味わえたのかもしれない。



これからの子どもたちに求められる「総合的人間力」

「総合的人間力」という言葉を聞いたことがありますか。（私も最近知ったことですが）「総合的人間力」とは「目標に向かってがんばる力」「ほかの人とうまく関わる力」「感情をコントロールする力」をさし示す言葉だそうです。



そして、この力は、幼稚園や保育園の段階から育まれていくということです。

この「総合的人間力」を高めるためには、3つのことが大切にされています。

- ①子どもたちに「たくさん経験する」機会を与える。
- ②子どもたちに「自分で考える機会」「自分で選ぶ機会」を与える。
- ③子どもたちに「仲間と切磋琢磨する活動」を積み重ねていく。

昨年メジャーリーグで「二刀流」で大活躍した大谷翔平選手は、野球に取り組む姿勢やその人柄から「総合的人間力」が高いのがうかがわれます。また、今年の箱根駅伝で優勝したA大学では、「選手一人ひとりが目標や課題を自分で見つけて主体的に練習に取り組むことを大切にしている」ということを監督さんが語っていただきました。

人との関わりが薄れがちで、将来の見通しが立ちにくい社会にあって、この「総合的人間力」はますます求められていくに違いありません。



人生はジグソーパズル。ムダなピースはひとつもない



冒頭で紹介した「トラ作り」もそうですが、自分が思い描いた通りに物事が進んでくれないことや、自分の意に反することに取り組まなければならないこと、思わぬところでつまづくことが、日々の生活や人生ではたくさんあります。きっと保護者の皆さんも、そんな経験をいく度となくされてきていることでしょう。

私自身、子どもの頃の「何で自分だけできないんだろう」から始まって、学生時代の「何で肝心な時に失敗ばかりするんだろう」、社会に出てからの「自分はこの職業に向いているのだろうか」「この仕事をするために教師になったのだろうか」などなど、悩んだり苦しんだりした経験は枚挙に暇がありません。(今思えば、取るに足らないことや、浅はかな自分が蒔いた種もたくさんあるのですが…)



しかし、今、振り返ってみると、悩んだり苦しんだりしながら手に入れたり乗り越えたり



りしたことが、自分の思い通りに運んだことよりも、自分自身のよりどころとなってくれているのがわかります。また、その時は気がつかなくても、何年か経って、心の支えとなってくれている経験もあります。

まさに人生はジグソーパズル。どんなピース(経験)にも必ず意味があります。ムダなピース(経験)はひとつもありません。始業式で子どもたちに呼びかけた「失敗してもくじけずに挑戦する1年にしよう」という言葉を自分自身に言い聞かせ、手にするピースを心を込めてたいせつに扱ってみたいと思います。



※画像は、1月13日(木)の大楠幼稚園との交流の様子です。